

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市通町児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 27,067人(前年度比 112.5%) 令和5年度 24,057人 令和4年度 19,483人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 40,124千円 (39,724千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
『日常を大切に活動 一つひとつ丁寧な対応を』を心がけ運営した。〈児童健全育成事業〉児童クラブ児童の増加に伴い平日開催していた行事を空間・時間に余裕のある土曜日に変更したことで小学生向けの制作・クッキング等の『わくわくタイム』を充実させることが出来た。月1回の『からだであそぼう』や長期学校休業日のデイリープログラムで小学校体育館を活用し異年齢で思いきり遊べるようにした。こども参画をより推進するためプレこども児童館運営委員会を立ち上げた。〈子育て家庭支援事業〉主に0歳児親子を対象とした『びよびひろば』ではおうちの方が学びとリフレッシュを兼ねたヨガやベビーサインを企画し、親同士、講師の先生と交流することが出来た。〈地域交流推進事業〉地域諸団体と連携し『顔の見えるつながりを大切に』したまちづくりの一環として秋休みに『てらまちフェスタ』を行った。児童クラブの在籍児童がボランティアとして参加し「またやりたい」と自己有用感につながった。 〈放課後児童健全育成事業〉安心・安全な居場所となるよう、小学校や保育園などと連携して、児童と職員、保護者と職員の信頼関係を築くよう努めた。個別面談を全家庭と行い子どもの育ちの支援につながった。また、職員が子どもや保護者との関わりについて真摯に振り返る機会となり、職員の資質向上につながり、全職員が子ども・保護者理解を深めることができた。子どもたちが児童館で長時間過ごす長期学校休業日のプログラムに、制作・おはなし・体育館タイムを取り入れ楽しく過ごせるように工夫した。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、「わくわくタイム」の開催日を平日から土曜日に変更し、こども達が参加しやすいよう空間や時間などの環境を整えた。香り袋作りやハロウィンの小物作りなどの造形活動や、梅シロップ作りやかき氷を作って食べようなどの季節の体験など、こども達の興味関心を広げたり豊かな感性を育む多彩なプログラムを提供し、多くのこども達が参加している。また、プレこども児童館運営委員会を立ち上げた。児童館での過ごし方についてなど、こどもの意見を反映させる機会を設け、運営にも主体的に関わることができるよう工夫している。 子育て家庭支援事業においては、継続して乳幼児室を常設したり、「幼児クラブ」をゆるやかな登録制にするなど、乳幼児親子の視点で利用しやすい環境作りに努めている。また、「1dayサロン」では、香り袋やくみひも作りなどの作品作りに加えて、いももちや蒸しパンなど親子で安心して食べられるおやつを提供も行き、参加者がホッとしながら情報共有をしたり交流する場になっている。 地域交流推進事業においては、「通町・柏木ご近所会議」に参加し、地域の関係機関と積極的に連携しながら子育て家庭を支援している。また、「てらまちフェスタ」への参加や、「干し柿作り」、複数の市民センターまつりにこどもの作品を展示するなど、地域に根ざした活動に積極的かつ継続的に関わっており、地域交流や多世代間交流の拠点になっている。 放課後児童健全育成事業においては、身体を休めたり、思いを話すことができる場所を設け、こども一人一人が安心して過ごせる生活の場としての環境を整えている。お話タイムや制作タイム、体育館での運動遊びなど、様々なプログラムを用意し、こどもが主体的に生活できるような支援に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課